

ドレスアップテーブルの制作

-授業廃棄物のアップサイクル-

八代研究室
01612047 小室 慈英

1. 制作の目的

私は、現在の生産活動において、使用者が最終的なデザインの決定権を握る時代であると感じている。

「ドレスアップ」とは、玩具などの世界で「着せ替え」である。使用者がアレンジできる生産活動こそがアップサイクルの原点ではないかと考える。そこで今回は、着せ替えの幅が使用者に湯種やすく、服飾的感覚を持つサイドテーブルの制作を行う。

また本学では、大量の授業廃棄物を生み出しているが、私はそれらを宝の山だと感じている。その思考から、本来処分されてしまう授業廃棄物を素材としてアップサイクルを行う。これにより、新たなアップサイクルの汎用性を高めることを目的とする。

2. アップサイクルとは (図1)

アップサイクルとは、廃棄物（鉄屑は買い取ってもらっているため、本制作では廃棄物に含めない）など使用しなくなった物を、形質は変えず素材として使用すること、また元の特徴を生かすなどして、付加価値を高める考え方である。

3. デザインの選定 (図2)

私は現在を服飾的に表現すると、「ストリート時代」即ち「自然発生的なデザインが主流の時代」だと感じている。

デザインを選定するにあたって、現在を表現する自然発生的なデザインをモチーフにしたいと考えた。数あるデザインの中で個性差があるにも関わらず、誰もが共通の認識を持つ自然的デザインを思考したところ、中でも薔薇の花が適切であったため、上面のモチーフに選定した。

ラテルネンデッケという天井構造のデザインをモチーフに枠を組み、積み上げる方法で、薔薇の花弁を表現した。

各テーブルの表面を、和柄や民族柄などの視覚で認識できる柄にすることで、服飾的感覚を表現した。

5. 制作手順 (図3)

5.1 汚れの除去

- ・ 鑢や鉋で表面の汚れを落とす

5.2 天枠の制作

- ・ W750 mm×L1000mm の範囲に五角形の枠を組む

5.3 枠の制作

- ・ 5.2 を基準とし、5 段階の枠を制作する
- ・ 逆三角形になるように寸法を縮小させ、枠を組む
- ・ H400mm～H800mm の間に 5 つの引き出しが収まる枠を制作する

5.4 引き出しの制作

- ・ 板材と角材でスライドレールを制作する
- ・ 向こう板が当たるよう引き出しを制作する

5.5 テーブルの制作

- ・ 引き出しに服飾的な柄をはめ込む

5.6 塗装

- ・ 素材の統一感を演出するように塗装する

5.7 組み立て

- ・ 底面に底板を固定し、下から組み上げる

6. まとめ (図4)

本制作では、收拾した材を有るがままのサイズで使用している。しかし長さの異なる材の組み合わせにより、テーブルだけでなく、椅子として機能を持たせることも可能である。

本制作物は制作終了と同時に完成する物ではなく、どのように使っていくのか、どのような空間に設置するのかなど、使用者のスタイルによって塗装や毀傷などの個性を加えて初めて完成だと考える。

このプロセスこそがアップサイクルの本質であると私は考える。

「サイクル」とは即ち「循環」である。本制作物がデザインやプロセスも含めて次世代へ繋がる制作となり、今後アップサイクルを用いたデザインの循環が汎用されることを期待したい。

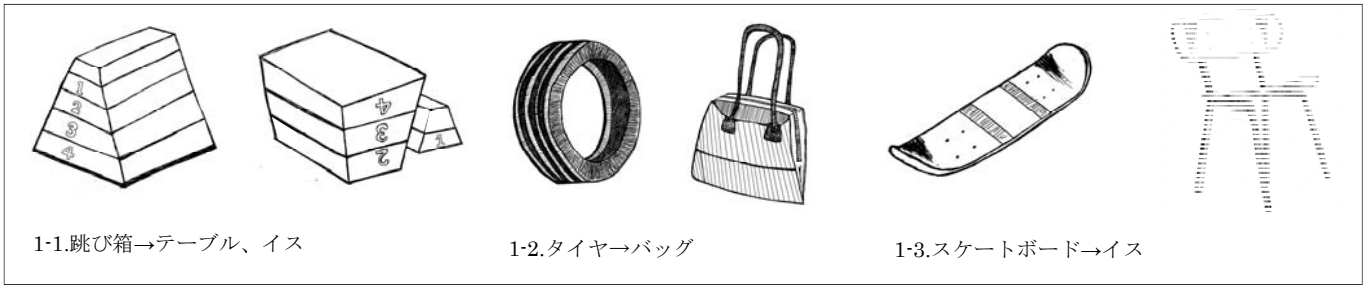


図1. アップサイクル事例

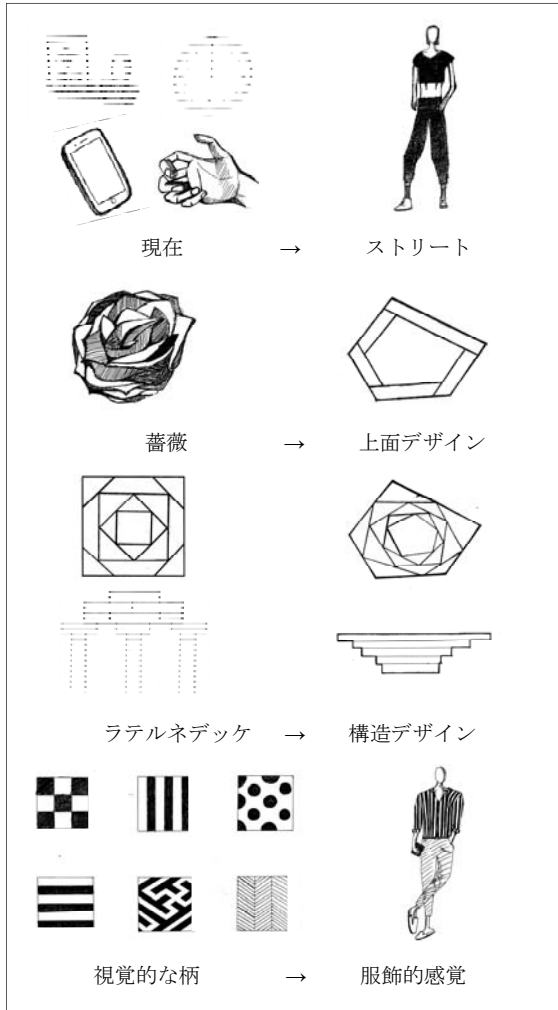


図2. デザインの選定

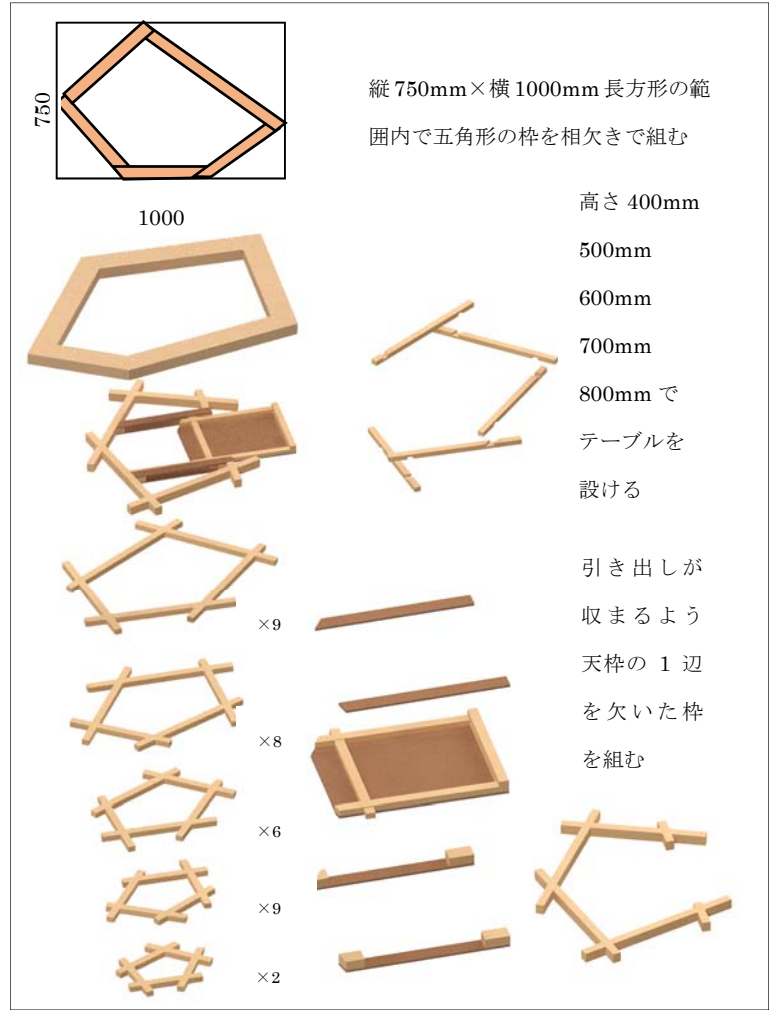


図3. 制作手順



図4. 完成写真